

長崎県における畜産・畜産環境対策の現状と取り組み

長崎県農林部畜産課肉用牛振興班

課長補佐 安松 恵一郎

1 長崎県の概要

長崎県は、九州の西北部に位置し、東は島原半島が突出し、有明海を隔てて熊本県、福岡県と接し、南は長崎半島が天草灘にのぞみ、西海上には五島列島が、西北海上には壱岐、対馬があり、東西213km、南北307kmに及ぶ県域を有しています。土地は平坦地が少なく、いたるところに山岳、丘陵が起伏し、海岸線は多くの半島、岬と湾、入江から形成されているため、海岸線の延長は約4,203km（平成19年3月31日現在）におよび、北海道に次ぎ全国第2位の長さとなっています。また、本県の気候は、対馬暖流の影響を受けて温暖な海洋性気候を呈し、晩秋から初冬にかけて比較的温暖であり、春先の気温上昇が早いことなどの特徴があります。

2 長崎県の農業

本県の総農家戸数は、41,956戸（「平成17年農林業センサス」）であり、平成12年に比べ5.7%減少しています。このうち、自給的農家は13,412戸、販売農家は28,544戸であり、平成12年に比べ、それぞれ18.1%の増加、13.6%の減少となっています。また、農家人口は40,909人（「平成17年農林業センサス」（基幹的農業従事者））であり、平成12年に比べ9.7%減少しています。

本県の耕地面積は、50,700ha（平成19年）で、県土の12.4%を占めており、このうちの田畑比率は47対53と畑面積の比率が大きくなっています。

また、本県の耕地は、平坦地に乏しく、水田の48%が1/20以上、畑の約9%が15度以上の急傾斜地で全国都道府県の水田14%、畑1%に比べて著しく高い割合となっています。

平成19年の本県の農業産出額は1,349億円であり、地域を支える重要な産業となっています。そのなかで、

畜産は農業産出額の34%（453億円）を占める基幹的作物となっており、畜産に次いで野菜が27%（365億円）、米12%（167億円）、果実9%（123億円）の順となっています。

3 長崎県の畜産

本県の畜産における農業産出額453億円中、肉用牛は201億円で県内作目第1位の産出額となっており、離島・半島地域の農業振興に不可欠な作物となっています。また、そのほかの畜種別産出額は、豚119億円、生乳52億円、鶏卵45億円、ブロイラー27億円となっています。

平成20年の家畜飼養頭羽数及び農家戸数は、肉用牛90,700頭・4,140戸、乳用牛10,800頭・232戸、豚214,400頭・167戸、採卵鶏1,783千羽・87戸、ブロイラー1,921千羽・43戸となっております。

畜種別飼養頭羽数及び農家戸数の推移

（単位：頭、千羽、戸）

		平成18年	平成19年	平成20年
乳用牛	頭数	12,400	11,800	10,800
	戸数	264	245	232
肉用牛	頭数	89,600	91,000	90,700
	うち肉専用種	71,000	72,600	73,600
	戸数	4,440	4,260	4,140
豚	頭数	195,700	212,100	214,400
	戸数	172	171	167
採卵鶏	羽数	1,802	1,788	1,783
	戸数	91	88	87
ブロイラー	羽数	1,637	1,886	1,921
	戸数	38	40	43

(1) 肉用牛

長崎県は飼養頭数全国8位を占める肉用牛生産県です。本県の牛の歴史は古く、壱岐（原の辻）、五島（大浜）の貝塚から2,200年前の牛の骨が発掘され、和牛の源流ではないかと考える学者もいます。

また、1,300年前には長崎の牛が牛車用の良牛として全国に名声を博していたことが記録に残っています。

離島・半島を中心として繁殖経営が中心でしたが、肥育経営の進展により、肉用牛生産県として、「長崎生まれ、長崎育ちの長崎和牛」のブランド化にも力を注いでいます。

「肉用牛振興ビジョン21（後期対策）」により、効率的・省力的な肉用牛生産体制を確立し、肉用牛経営全体のレベルアップと段階的な規模拡大を促進し、地域の中心となる担い手として繁殖経営においては年間販売高1千万円、肥育経営においては年間販売高1億円以上の販売農家を育成しています。



平茂晴号



長崎和牛ポスター

さらに、平成24年秋には、5年に1度、全国の優秀な和牛を一堂に集めて優劣を競う第10回全国和牛能力共進会が本県において開催されることにな

っており、大会の成功と日本一を目指して、生産者、関係者一体となって取り組んでいるところで

○第10回全国和牛能力共進会長崎県大会

開催期間 平成24年10月25日(木)～29日(月)

開催場所 メイン会場

種牛の部+イベント ハウステンボス(佐世保市)

肉牛の部 佐世保食肉センター(佐世保市)

サブ会場

イベント 島原復興アリーナ(島原市)

開催テーマ 和牛維新! 地域で伸ばそう生産力 築こう豊かな食文化



第10回全国和牛能力共進会長崎県大会ポスター

(2) 酪農

農家戸数及び飼養頭数は減少しているものの、搾乳牛1頭当たり乳量の増加から、生乳生産量はほぼ横ばい傾向で推移しています。ゆとりある酪農経営と生産性向上を目指して、酪農ヘルパー事業や乳用牛群検定事業の充実強化を図っています。

(3) 養豚

農家戸数は減少しているものの、1戸当たりの飼養頭数は着実に増加し、規模拡大が進んでいます。「長崎県養豚振興プラン」により環境との調和に配慮しつつ、企業的感觉に富む収益性の高い経営体育成を推進し、平成22年度の豚産出額110億円を目指しています。

(4) 養鶏

採卵鶏については、農家戸数、飼養羽数とも減少傾向で推移しています。一方、ブロイラーについては、近年、農家戸数、飼養羽数とも増加傾向で推移しています。県内の養鶏農家は、規模拡大による生産コストの低減を図るとともに、衛生管理の徹底による消費者ニーズにあった安全で良質な鶏卵・鶏肉の生産に取り組んでいます。

長崎県農林部畜産課ホームページアドレス
<http://www.pref.nagasaki.jp/tikusan/index.htm>

4 畜産環境を巡る情勢

(1) 畜産経営に起因する苦情等の発生状況

畜産経営に起因する苦情発生件数は、昭和60年度までは年間60件以上発生していましたが、その後は減少傾向で推移し、平成20年度は34件と前年度に比べ11件減少しています。その内訳は、悪臭13件、水質汚濁13件、悪臭害虫3件、水質害虫1件、害虫1件、その他3件となっています。

(2) 畜産環境対策への取り組み

家畜排せつ物処理施設の緊急的整備は終了しましたが、今後は家畜排せつ物の有効利用による資源循環型畜産を推進するため、生産された堆肥の円滑な利用を図る必要があります。このため、平成27年度を目標年度とする「長崎県における家畜排せつ物の利用の促進を図るための計画（平成20年4月公表）」（県計画）作成し、堆肥の円滑な利用を推進しているところです。また、畜産環境技術指導者養成会の開催により、畜産環境アドバイザーを養成し、事業アドバイスや畜産環境問題に対応しています。

① 県計画の概要

- ・ ニーズに即したたい肥づくり
- ・ 耕畜連携の強化
- ・ 家畜排せつ物のエネルギーとしての利用等の推進

② 県計画達成のための具体的な取り組み

・ 耕畜連携の強化策

昨年度原油等の高騰に伴う化学肥料高騰に対応するため、地域毎の堆肥生産者リストのパンフレットを4万部作成し、県内耕種農家に配付しました。

・ 平成20年度長崎県堆肥コンクールの開催

堆肥生産技術の向上と利用促進を目的として開催しました。昨年度はコンクール受賞者へのメリットを強調するため販売促進資材（シール等）のデザインを作成しました。（出品点数34（部門：牛ふん、豚ふん、鶏ふん、ブレンド））

・ 長崎県堆肥広域流通モデル事業（県単事業）の創設

地域間における堆肥の不均衡を広域流通により是正することを目的に、耕種農家等に堆肥調整保管庫及び広域堆肥運搬散布機械を整備し、地域内の滞留堆肥の解消対策を実施しました。

・ 畜産環境総合整備統合補助事業（資源リサイクル型）の取り組み

離島（五島市、壱岐市）において、小規模畜産農家等の堆肥処理の労力軽減並びに地域未利用資源の活用による地域有機農業の確立のために堆肥を供給するシステムを構築しました。



堆肥コンクール



堆肥コンクール受賞者販売促進用シール



堆肥プレート



畜産公共事業堆肥舎（施設全体）



畜産公共事業堆肥舎（処理状況）